

授業科目名：教育課程 論 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：古賀竣也 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び養護）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 <テーマ> 教育課程の意義、教育課程の編成の方法、カリキュラム・マネジメント <到達目標> （１）教育課程が学校および社会に果たしている役割や意義を説明できる。 （２）教科等横断的で、長期的な観点から、教育課程を編成する方法を説明できる。 （３）カリキュラム・マネジメントの意義や重要性を説明できる。 （４）カリキュラム評価の方法を説明できる。 （５）実在する学校を１校選び、その学校の教育課程の編成の案を提示できる。			
授業の概要 学校で何を、いつ、どのような順番で、どうやって教えるのか、という問いに取り組む中で、教育課程は編成される。また教育課程は、学習指導要領や学習指導要領解説だけでなく地域の特色や現状、社会のニーズなども踏まえて、編成される。しかし、これらすべてに対応して教育課程を編成しようとする、授業時数に対する内容の量が過剰（詰め込み過ぎ）になったり特定の教科が優先（他の教科等の活動が軽視）されたりする懸念がある。そのため、教師も児童生徒も疲弊しないように、教育課程を柔軟に編成することが求められる。そこで本科目では教育課程の編成の方法を学修する。特に、教育課程の編成の基本原理や観点、組織として教育課程を編成するための学校の在り方や意義を学修する。最終的に、実在する学校を１校選び、その学校の教育課程の編成の案を提示できるようになることを目指す。			
授業計画 第１回：教育課程の基準としての学習指導要領の特徴や位置づけを学修する。そのうえで、学習指導要領の改訂の変遷や改訂内容をもとに、教育課程の意義および役割、編成の目的を学修する。 第２回：カリキュラムの類型論や編成の原理を学修する。また、単元や学年を横断した長期的な観点から、教育課程を編成することの重要性および方法を学修する。 第３回：現行の学習指導要領をもとに、地域の特色や社会のニーズを踏まえた教育課程の役割を学修する。また、社会に開かれた教育課程の視点から、教育課程が社会で果たす機能を学修する。			

第4回：教育課程の副産物としての「隠れた」カリキュラムの具体例を学修する。そのうえで、教育課程の編成に絶えず取り組むことの重要性や、カリキュラム評価の必要性を学修する。

第5回：カリキュラム評価の方法を学修する。また、カリキュラム評価を効果的にかつ継続的に実施するための組織の在り方を、カリキュラム・マネジメントの視点から学修する。

第6回：「学校に基礎を置くカリキュラム開発」の視点から、研究開発学校制度などの報告書を参考に、教科等を横断した教育課程の編成とカリキュラム・マネジメントの重要性を学修する。

第7回：実在する学校を1校選ぶ。そして、その学校の教育課程の編成の案（教科等を横断した活動、単元や時間割、教育内容の配列など）を作成する。

第8回：第7回で取り組んだ成果を相互評価する。この活動を通して、教育課程の柔軟な編成の方法と、カリキュラム評価の必要性を学修する。

テキスト

毎回の授業で、授業資料を配布する。

参考書・参考資料等

- (1) 小学校学習指導要領（平成29年公示）
- (2) 中学校学習指導要領（平成29年公示）
- (3) 高等学校学習指導要領（平成29年公示）

学生に対する評価

1. 毎回の授業で課す小レポート（70%）：＜到達目標＞の（1）～（4）と対応。
2. 第8回の授業での発表内容（30%）：＜到達目標＞の（5）と対応。

授業科目名： 教育方法学 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：足立佳菜 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び養護）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）（幼稚園及び養護） ・教育の方法及び技術（小学校、中学校及び高等学校）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業では、「授業」を中核としながらもより幅広い視点から教育方法のあり方を学び、現代の教育動向を踏まえながら、教育方法・授業方法の多様な可能性に気づくことを目的とし、以下の4点を到達目標とする。</p> <p>① 現代の教育方法について説明する際の必須用語（主体的・対話的で深い学び、個別最適で協働的な学び、コンピテンシーなど）について適切に説明ができる。</p> <p>② これからの子どもたちに育みたい資質能力に応じた教育・授業のあり方や可能性を創造的に考え、これを自分の言葉で説明できる。</p> <p>③ 学習指導案の目的と書き方を理解し、基本的な学習指導案を作成できる。</p> <p>④ 教育方法に関する自身の学びを振り返り、自身にとって重要な変容点を分析、言語化することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、教育方法を構成する基本的な要素（目標、内容、指導法、学習環境、教材・教具等）について基礎的事項について学ぶとともに、教育方法のあり方について、歴史的視点や学習観の転換、授業方法に留まらない学習環境デザインといった視点から理解を深める。あわせて、学習指導案の基本的な作成の仕方を身につける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業目的・学習課題の確認、教育方法とは</p> <p>第2回：教育方法の歴史と現代的動向（主体的・対話的で深い学び、個別最適で協働的な学び）</p> <p>第3回：学力・コンピテンシーと学習評価</p> <p>第4回：教材・教科書、教具・メディアの活用</p> <p>第5回：学び合い、学習環境デザインと教師の役割</p> <p>第6回：学習指導案の基本、発問、板書</p> <p>第7回：学習指導案の作成と検討</p> <p>第8回：学習指導案の振り返り、学習の振り返り、重要語句確認試験</p> <p>学期末レポート</p>			
テキスト			

小室弘毅・齋藤智哉編『ワークで学ぶ 教育の方法と技術』ナカニシヤ出版、2019年

参考書・参考資料等

適宜授業内で紹介する。

学生に対する評価

A. 授業内筆記試験【20%】、B. レポート【50%】、C. 各種提出物、授業内活動【30%】。

A～C各項目においてそれぞれ60%に満たない場合は不可とする。

3分の2以上出席しなければ、筆記試験やレポート提出の資格を失う。

授業科目名： 教育とICT活用 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：前田康裕、大塚 芳生、田口浩継 担当形態：複数
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び養護）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）（幼稚園及び養護） ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法（小学校、中学校及び高等学校） 		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方及び児童・生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>一斉講義形式ではなく、情報通信機器の実技を伴う演習を通したり、学校現場の実態を理解したりすることによって、情報通信技術を効果的に活用した実践的な指導力を高める。また、授業ごとにデジタル・リフレクションシートを記入できるようにして形成的に評価し、学生自らが「主体的・対話的で深い学び」の実際を体験できるようにする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業概要・評価の説明，社会背景と情報通信技術活用の意義</p> <p>第2回：情報通信技術の授業での活用の意義と理論</p> <p>第3回：情報通信技術を効果的に活用した学習指導</p> <p>第4回：情報通信技術を効果的に活用した校務の推進</p> <p>第5回：児童生徒の情報活用能力を育成するための指導法1（各教科等の特性に応じた指導事例）</p> <p>第6回：児童生徒の情報活用能力を育成するための指導法2（教科横断的に育成する情報活用能力）</p> <p>第7回：児童生徒の情報活用能力を育成するための指導法3（情報活用能力育成の学習プロセス）</p> <p>第8回：児童生徒の情報活用能力を育成するための指導法4（デジタル・シティズンシップ）</p>			
<p>テキスト</p> <p>紙面あるいは電子媒体による資料を配付する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前田康裕（2019）：まんがで知る未来への学び，さくら社，ISBN-13:978-4908983252 2. 前田康裕（2020）：まんがで知る未来への学び2，さくら社，ISBN-13:978-4908983337 3. 前田康裕（2020）：まんがで知る未来への学び3，さくら社，ISBN-13:978-4908983474 4. 坂本旬，芳賀高洋，豊福晋平，今度珠美，林一真（2020）：デジタル・シティズンシップ 			

，大月書店，ISBN-13:978-4272412594

5. 中川一史，赤堀侃司（2021）：GIGAスクール時代の学びを拓く！ PC 1人1台授業スタートブック，ぎょうせい，ISBN-13:978-4324109199

学生に対する評価

定期試験の代わりに，リフレクションシート，制作物，発表等によって評価を行う。

授業科目名： 幼児理解の理論と方法 【シラバス共通科目（佐 大・熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 名倉一美、藤田豊 担当形態：クラス分け・ 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に 関する科目（幼稚園）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児理解の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標： 1. 乳幼児期の子どもの発達特性を説明することができる。2. 保育者が行う幼児理解の方法 や配慮点について解説することができる。3. 多面的な幼児理解のための記録や研修の必要性 を理解し、自らも記録を作成することができる。			
授業の概要：幼児一人一人の内面に何が起こり、どのような思いを抱いているのかに目を向け 、幼児期の発達の特性を踏まえ、理解を深めながら、幼児の生活の実情に即した幼児教育の基 本的な考え方や方法を学ぶ。			
授業計画 第1回： 「幼児理解」の学びの概要 第2回： 子ども理解①—行為の「意味」を理解する 第3回： 子ども理解②—子どもの「発達」過程を捉えるまなざし 第4回： 子ども理解の方法①—保育者に求められる「観察」力 第5回： 子ども理解の方法②—保育者に求められる「傾聴」力 第6回： 子ども理解の方法③—保育者に求められる「表現」力 第7回： 育ちの過程への理解と援助①—事例から学ぶ0～1歳児期の子ども 第8回： 育ちの過程への理解と援助②—事例から学ぶ2～3歳児期の子ども 第9回： 育ちの過程への理解と援助③—事例から学ぶ4～5歳児期の子ども 第10回： 育ちの過程への理解と援助④—事例から学ぶ「気になる」子への対応から 第11回： 子ども理解につながる保護者理解—事例から学ぶ 第12回： 子ども理解と評価①—記録と幼児の評価の視点 第13回： 子ども理解と評価②—「理解」をより深めるための記録の取り方 第14回： 子ども理解と評価③—「理解」をより深めるための保育カンファレンス 第15回： 子ども理解と評価④—今後の保育の課題と幼児理解			
テキスト 適宜プリントを配布する。			
参考書・参考資料等 文部科学省「幼児理解に基づいた評価（平成31年）」（チャイルド社）			

学生に対する評価

毎時行う各講義内課題（ワーク及びミニレポート）にて評価する(100%)

授業科目名：教育相談 の理論及び方法 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 高岸幸弘、黒山竜太
			担当形態： 複数
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び養護）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 様々な心理的課題を抱えている児童や生徒に対して、学校内で教師が実行すべき教育相談（心理教育法やカウンセリング）の基本的知識と技術を身につける			
授業の概要 子どもを取り巻く状況（学校・家庭・社会）や、学校教育の領域でなされている活動がどのように心理的健康と関連するかを概観し、様々な心理的課題を抱えている児童や生徒に対して、学校内で教師が実行すべき教育相談（心理教育法やカウンセリング）の基本的知識と技術を提供します。それらを知的にも体験的にも学習していきます。			
授業計画 第1回：教育相談の意義と理論 第2回：教育相談に関わる心理学的理論 第3回：子どもの発達と問題 第4回：カウンセリングの基礎知識 第5回：教育相談の計画の作成 第6回：不登校の対応 第7回：いじめの対応 第8回：専門機関との連携 定期試験			
テキスト 新時代の教育相談～つなぐ、支える、ともに歩む～（高岸幸弘・黒山竜太編著、北樹出版）			
参考書・参考資料等 よくわかる臨床心理学（下山晴彦編、ミルヴァ書房）			
学生に対する評価 定期試験（60％）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（40％）			

シラバス：教職実践演習（幼・小・中・高）

シラバス：教職実践演習 （幼・小・中・高）	単位数：2単位	担当教員名：藤瀬 泰司
科 目	教育実践に関する科目	
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1) <input type="radio"/> 学校現場の意見聴取(※2) <input type="radio"/>
受講者数 140人（幼・小・中・高：グループワークは7クラスで実施）		
教員の連携・協力体制 全体講義では各回のテーマを専門とする教員が講義を担当し、グループ討議では教職担当教員と教科専門担当教員が連携して指導にあたる。		
授業のテーマ及び到達目標 教員として求められる下記の4つの事項について、教職課程の科目で学んだ理論と教育実習等の実践をとおしてどの程度身につけることができたかを確認し、教育実践に向けた最小限必要な資質・能力の修得を目標とする。 <ul style="list-style-type: none"> ● 使命感や責任感、教育的愛情に関する事項 ● 社会性や対人関係能力に関する事項 ● 生徒理解や学級経営等に関する事項 ● 教科等（保育内容）の指導力に関する事項 		
授業の概要 履修カルテを参考に個人もしくはグループごとに、教員として求められる4つの事項に関連した課題テーマを設定し、講義や模擬授業・現地調査などの演習とグループ討議をとおして、各自の課題に取り組む。大学教員や現職教員による全体講義と学生を小グループに分けて実施するグループ討議を組み合わせ、毎回のテーマが深まるように実施する。		
授業計画 第1回 ガイダンス及び3年次までの学習成果の振り返り 第2回 現地調査の事前指導 第3回 模擬授業（1）学習指導案作成（教材研究・開発）等 第4回 模擬授業（2）模擬授業の実践 第5回 教師の使命、責任について 第6回 社会性や対人関係能力について 第7回 特別支援教育について 第8回 幼児・児童・生徒理解、学級経営について（eラーニング） 第9回 幼児・児童・生徒理解、学級経営について（現職教員の講義等含む） 第10回 ストレスマネジメントについて 第11回 現地調査（訪問校1）観察、資料収集 第12回 現地調査（訪問校2）観察、資料収集 第13回 ICTの活用（現職教員の講義等含む） 第14回 現地調査報告会の準備 第15回 現地調査報告会		
テキスト 教職実践演習テキスト（熊本大学教育学部 編）		

参考書・参考資料等

各授業で必要なプリント類を適宜配布する。

学生に対する評価

教職関連の講義、教育実習等に基づいた教育者としての自己目標・自己課題の設定が適切にできているかを、グループ討議、報告会、レポート等で総合的に評価する。

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

授業科目名：特別活動 及び総合的な学習の時間 の指導法 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 波多江 俊介 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目（小学校、中学校、高等学校及び養護）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間の指導法（小学校） ・総合的な学習（探究）の時間の指導法（中学校及び高等学校） ・道徳、総合的な学習の時間及び総合的な探究の時間並びに特別活動に関する内容（養護） 		
授業のテーマ及び到達目標 特別活動・総合的な学習の時間それぞれについて、学習指導要領の目標を達成できるような年間指導計画に位置付けた実施計画を作成し、実践することができる。			
授業の概要 特別活動の指導法について講義・実践する。学習指導要領に記載されている学級活動・児童生徒会活動・学校行事・クラブ活動等について割り当てをし、各事項ごとのミッションを課すので、それをこなしてもらう。総合的な学習の時間の指導法についての講義・実践もまた同様とする。			
授業計画 第1回：イントロダクション：教育課程編成の原理やカリキュラムマネジメントの視点から解説 第2回：学習指導要領における特別活動、総合的な学習の時間の目標や位置づけと、指導の在り方について解説 第3回：特別活動、総合的な学習の時間に関する、学校・家庭・地域における組織的指導体制について解説 第4回：特別活動の指導原理：学級活動・ホームルーム活動 第5回：特別活動の指導原理：児童会・生徒会活動 第6回：特別活動の指導原理：クラブ活動、学校行事 第7回：特別活動における指導実践①：学級活動・ホームルーム活動 第8回：特別活動における指導実践②：児童会・生徒会活動 第9回：特別活動における指導実践③：クラブ活動、学校行事 第10回：総合的な学習の時間・探究の時間における、主体的・対話的で深い学びに繋がる探究的な学習の在り方について① 第11回：総合的な学習の時間・探究の時間における、主体的・対話的で深い学びに繋がる探究的な学習の在り方について②			

第12回：総合的な学習の時間・探究の時間における、主体的・対話的で深い学びに繋がる探究的な学習の在り方について③

第13回：特別活動、総合的な学習の時間を中心としたカリキュラムマネジメントの解説

第14回：特別活動、総合的な学習の時間における実践と評価について

第15回：特別活動、総合的な学習の時間に関する本講義のまとめ

定期試験は実施しない

テキスト

『中学校学習指導要領解説 特別活動編』

『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』

『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』

『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』

『中学校・高等学校キャリア教育の手引き』

参考書・参考資料等

元兼正浩『特別活動エッセンス **総合版**—望ましい人間関係づくりのために』花書院、2023年

学生に対する評価

「授業における提出物の内容：40%」・「授業における実践の完成度と実践への貢献度：40%」・「学期末のレポート：20%」で評価する。

授業科目名：生徒指導 と学校カウンセリング	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：石井宏祐 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（小学校、中学校、高等学校及び養護）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標： 自己指導能力を育む生徒指導の意義と課題を、重層的支援構造をふまえて理解し、組織的な取り組みのあり方を概観する。さらに個別の課題を抱える児童生徒の事例をもとに、学校カウンセリングの具体的支援について学ぶ。本講義の達成目標は以下の2点である。 (1) 生徒指導の理論的意義と実践的方法について基礎的知見を述べることができる。 (2) 生徒指導における学校カウンセリングの基礎的知見を述べることができる。			
授業の概要： (1) 生徒指導の意義と原理と課題を理解する。 (2) 学校カウンセリングの方法を含む生徒指導の多彩な進め方を理解する。 (3) 生徒指導上の個別の課題とそれぞれの対応について理解する。 (4) 組織的な対応、特に連携を重視した取り組みのあり方を理解する。 (5) 保護者理解と保護者連携について理解する。			
授業計画 第1回：生徒指導の意義と方法第 第2回：生徒指導の課題 第3回：学習指導と生徒指導 第4回：生徒指導に関わる法令 第5回：生徒指導と児童生徒理解 第6回：生徒指導と保護者との関わり 第7回：生徒指導と学校カウンセリング 第8回：生徒指導における「個別の課題」総論 第9回：暴力行為の理解と対応 第10回：いじめの理解と対応 第11回：不登校の理解と対応 第12回：インターネットの問題の理解と対応 第13回：性と生と死に関する課題の理解と対応 第14回：児童虐待の理解と対応 第15回：適切な指導と不適切な指導			
テキスト 文部科学省『生徒指導提要』			
参考書・参考資料等 適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 毎回の講義で提示する課題（小レポートや小テスト）にて評価する(100%)			

授業科目名：進路指導 及びキャリア教育の理 論及び方法 【共同科目（熊大） 】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 高岸幸弘、黒山竜太 担当形態： 複数
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目（小学校、中学校及び高等学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 児童及び生徒が自ら将来を選択し計画するための進路指導、及び児童生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向けて必要なキャリア教育に関する基本的知識と技術を身につける			
授業の概要 児童生徒が自ら将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸ばしていけるよう、進路指導は教師にとって重要な教育活動です。また、それを包含するキャリア教育は学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人ひとりの社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力を育むことを目的としています。これらのことについて、学生自身も教師を目指す立場として主体的に学んでいきます。			
授業計画 第1回：進路指導の意義 第2回：教育課程における進路指導の位置づけ 第3回：進路指導の内容と領域 第4回：進路指導の進め方 第5回：キャリア教育とは 第6回：ガイダンスとしてのキャリア教育 第7回：キャリアカウンセリング・学校コーチングとは 第8回：進路相談・キャリアカウンセリングの実際 定期試験			
テキスト 生徒指導・進路指導・教育相談テキスト（鈴木康明著、北大路書房）			
参考書・参考資料等 よくわかる臨床心理学（下山晴彦編、ミルヴァ書房）			
学生に対する評価 定期試験（60%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（40%）			

シラバス：教職実践演習（養護教諭）

シラバス：教職実践演習（養護教諭）	単位数：2単位	担当教員名：藤瀬 泰司
科 目	教育実践に関する科目	
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1) <input type="radio"/> 学校現場の意見聴取(※2) <input type="radio"/>
受講者数 30人（養護教諭）		
教員の連携・協力体制 全体講義では各回のテーマを専門とする教員が講義を担当し、グループ討議では教職担当教員と教科専門担当教員が連携して指導にあたる。		
授業のテーマ及び到達目標 教員として求められる下記の4つの事項について、教職課程の科目で学んだ理論と教育実習等の実践をとおしてどの程度身につけることができたかを確認し、教育実践に向けた最小限必要な資質・能力の修得を目標とする。 ● 使命感や責任感、教育的愛情に関する事項 ● 社会性や対人関係能力に関する事項 ● 生徒理解や学級経営等に関する事項 ● 教科等（保健指導・保健学習）の指導力に関する事項		
授業の概要 履修カルテを参考に個人もしくはグループごとに、教員として求められる4つの事項に関連した課題テーマを設定し、講義や模擬授業・現地調査などの演習とグループ討議をとおして、各自の課題に取り組む。大学教員や現職教員による全体講義と学生を小グループに分けて実施するグループ討議を組み合わせ、毎回のテーマが深まるように実施する。		
授業計画 第1回 ガイダンス及び3年次までの学習成果の振り返り 第2回 現地調査の事前指導 第3回 模擬授業（1）教材研究・開発等 第4回 模擬授業（2）模擬授業（保健指導等）の実践 第5回 教師の使命、責任について 第6回 社会性や対人関係能力について 第7回 特別支援教育について 第8回 幼児・児童・生徒理解、保健室経営について（eラーニング） 第9回 幼児・児童・生徒理解、保健室経営について（現職教員の講義等含む） 第10回 ストレスマネジメントについて 第11回 現地調査（訪問校1）観察、資料収集 第12回 現地調査（訪問校2）観察、資料収集 第13回 ICTの活用（現職教員の講義等含む） 第14回 現地調査報告会の準備 第15回 現地調査報告会		
テキスト 教職実践演習テキスト（熊本大学教育学部 編）		

参考書・参考資料等

各授業で必要なプリント類を適宜配布する。

学生に対する評価

教職関連の講義、教育実習等に基づいた教育者としての自己目標・自己課題の設定が適切にできているかを、グループ討議、報告会、レポート等で総合的に評価する。

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

授業科目名：特別支援 教育基礎論 【シラバス共通科目 (佐大・熊大)】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 芳野正昭・菊池哲平 担当形態： クラス分け・単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育の基礎理論に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標 1. 特別支援教育の理念と特別支援学校に関する制度との相互の関係を理解する。 2. 障害のある幼児、児童又は生徒の教育に関する歴史、特殊教育の果たしてきた役割や障害者施策を巡る動向の変化を踏まえつつ、現代に至るまでの特別支援教育の基本的な考え方及び特別支援学校の変遷を理解する。 3. 特別支援教育の思想と特別支援教育の理念や実際の特別支援学校の教育との関わりを理解する。 4. 社会の状況を理解し、その変化が特別支援学校の教育にもたらす影響とそこから生じる課題、並びにそれに対応するための教育政策の動向を理解する。 5. 特別支援学校の公教育制度を構成している教育関係法規を理解するとともに、そこに関連する特別支援学校教育要領・学習指導要領が有する役割・機能・意義を理解する。 6. 特別支援学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から理解する。			
授業の概要 特別支援教育の基礎について総論的に講義する。障害の捉え方、障害児教育の歴史、特別支援教育の理念と制度、特別支援学校の教育と課題、小・中学校等における特別支援教育、特別支援教育の対象となる各種障害の理解と支援に関して概説する。			
授業計画 第1回：障害観・障害者観の変化とノーマライゼーション 第2回：ICFとインクルーシブ教育 第3回：特別支援教育の理念・思想 第4回：日本の障害児教育の歴史（1）戦前の特殊教育 第5回：日本の障害児教育の歴史（2）戦後の特殊教育の発展 第6回：日本の障害児教育の歴史（3）特殊教育から特別支援教育への転換および展開 第7回：特別支援教育の制度と特別支援学校の機能・役割 第8回：特別支援学校の教育（1）特別支援学校の目的及び教育目標と教育課程の基準 第9回：特別支援学校の教育（2）特別支援学校教育要領・学習指導要領と自立活動等 第10回：特別支援学校の教育（3）一人一人の教育的ニーズ等に応じた支援、キャリア教育、関			

係機関等との連携、交流及び共同学習

第11回：特別支援学校の課題と小・中学校等における特別支援教育

第12回：特別支援教育の対象となる障害（視覚障害）の理解と支援

第13回：特別支援教育の対象となる障害（聴覚障害）の理解と支援

第14回：特別支援教育の対象となる障害（知的障害）の理解と支援

第15回：特別支援教育の対象となる障害（肢体不自由、病弱・身体虚弱）の理解と支援

定期試験

テキスト

①『特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』（平成29年4月告示 文部科学省）

②『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）』（平成30年3月 文部科学省）

参考書・参考資料等

適宜、資料の配布、参考文献等の紹介をする。

学生に対する評価

授業期間中のレポート（10%）及び試験（90%）により評価する。

授業科目名： 知的障害児の心理・生理・病理 【シラバス共通科目 (佐大・熊大)】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 日高茂暢／日高茂暢・半田健 担当形態： クラス分け・単独／複数
科目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：知）		
授業のテーマ及び到達目標 知的障害の心理面および生理面の特徴並びに知的障害の要因となる病理面や併存・合併症，それらの相互作用について理解し、幼児、児童又は生徒一人一人の知的障害の状態や適応行動の困難さ及び認知の特性を把握することを理解するとともに、家庭や関係機関との連携について理解する。			
授業の概要 知的障害のある子どもの障害の重度化、多様化に応じて、指導実践の理論的背景に踏み込んだ研究がなされている。本授業では、心理学や中枢神経系の機能、知的障害に関わる病理的側面、家庭・関係機関との連携の観点から、知的障害のある子どもや大人の理解を深め、指導の背景になる基礎を学ぶことを目標として講義する。			
授業計画 第1回：知的障害の定義、知的機能と適応機能 第2回：知的障害に関する生理的側面 中枢神経系の発達と障害・大脳機能局在説 第3回：知的障害に関する病理的側面 遺伝子疾患・染色体異常（ウィリアムズ症候群、ダウン症） 第4回：知的障害に関する病理的側面 てんかん・内分泌疾患・代謝性疾患 第5回：知的障害の心理機能 感覚・知覚 第6回：知的障害の心理機能 注意・記憶 第7回：知的障害の心理機能 学習理論 第8回：知的障害の心理機能 応用行動分析学 第9回：知的障害の心理機能 言語・コミュニケーション 第10回：知的障害の心理機能 運動・健康 第11回：知的障害と関連領域 自閉スペクトラム・精神疾患 第12回：知的障害と関連領域 高次脳機能障害・児童虐待 第13回：家庭や関係機関との連携 保護者理解 第14回：家庭や関係機関との連携 連携の実際（ゲストティーチャー等の活用）			

第15回：まとめ 知的障害教育とエビデンス・ベースド・プラクティス

定期試験

テキスト

勝二博亮ら（2023）：知的障害児の心理・生理・病理 エビデンスに基づく特別支援教育のために【第2版】．北大路書房

参考書・参考資料等

梅谷忠勇（2004）：図解 知的障害児の認知と学習—特性理解と援助—. 田研出版.

小池敏英・北島善夫（2001）：知的障害の心理学—発達支援からの理解. 北大路書房.

学生に対する評価

定期試験やレポートに基づいて評価する。

授業科目名： 肢体不自由の心理・生理・病理 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：本吉大介・小篠史郎 担当形態： オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：肢、含む領域：知病）		
授業のテーマ及び到達目標 授業テーマ： 肢体不自由児の心理、生理、病理に関する特性を理解し、個別の支援に役立つ知識と連携の重要性を学ぶ。 到達目標 1. 肢体不自由の起因疾患（脳原性疾患、脊髄疾患、末梢神経疾患）の病理、心理、生理的特徴と相互作用を理解する。 2. 脳性まひのある児童等の肢体不自由の状態や感覚機能の発達、知能の発達、認知特性を観察・把握する方法を理解する。 3. 家庭や医療機関との連携の重要性を理解する。			
授業の概要 本授業では、肢体不自由児の心理、生理、病理に関する基礎的な知識を学び、具体的な事例を通して、それぞれの特性や支援の方法について検討する。また、家庭や医療機関との連携の重要性についても理解を深める。			
授業計画 第1回：肢体不自由の概要と起因疾患の病理（本吉・小篠） 第2回：肢体不自由の生理的特徴（小篠） 第3回：肢体不自由の心理的特徴（本吉） 第4回：心理・生理・病理の相互作用（本吉） 第5回：観察・検査による個別支援のためのアセスメント（本吉） 第6回：家庭や医療機関との連携(1)家庭との連携（本吉） 第7回：家庭や医療機関との連携(2)医療機関との連携（本吉・小篠） 第8回：総合的な支援の実践事例（本吉）			
テキスト 障害のある子供の教育支援の手引き～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～（文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 令和3年6月）			
参考書・参考資料等			

適宜、配布・紹介する。

学生に対する評価

平常点30%、中間課題30%、期末課題40%で総合的に評価する。

授業科目名： 病弱児の心理・生理・病理 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 日高 茂暢、藤田 一郎 担当形態： オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：病、含む領域：知肢）		
授業のテーマ及び到達目標 病弱（身体虚弱を含む）の幼児、児童又は生徒の病気（身体疾患や精神疾患）や心身の不調な状態が続く背景となる病理面と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解し、幼児、児童又は生徒一人一人の病気や障害の状態、社会性の発達及び認知の特性を把握することを理解するとともに、家庭や学校間、医療、福祉及び保健機関との連携について理解する。			
授業の概要 健康に関する考え方や病弱（身体虚弱を含む）による教育的ニーズをもつ子どもの病気に関する心理、生理、病理的側面に関する理解を深め、指導の背景になる基礎を学ぶことを目標として講義する。			
授業計画 第1回：健康の概念と病気理解に関する心理発達（日高 茂暢） 第2回：病弱児の理解と支援（身体疾患） アレルギー疾患、心臓病（藤田 一郎） 第3回：病弱児の理解と支援（身体疾患） 小児がん（藤田 一郎） 第4回：病弱児の理解と支援（身体疾患） 緩和ケア、ターミナルケア期の子ども（藤田 一郎） 第5回：病弱児の理解と支援（精神疾患） 発達障害、心身症（日高 茂暢） 第6回：病弱児の理解と支援（精神疾患） 摂食障害（日高 茂暢） 第7回：病弱児の理解と支援（精神疾患） 社交不安・場面緘黙（日高 茂暢） 第8回：病弱児の理解と支援（関連領域） 病弱児者の家族、きょうだい（日高 茂暢）			
定期試験			
テキスト 適宜資料を配付する。			
参考書・参考資料等 日本育療学会（2019）：標準「病弱児の教育」テキスト．ジヤース教育新社． 宮本信也・土橋圭子（2015）：病弱・虚弱児の医療・療育・教育 改訂3版．金芳堂．			
学生に対する評価			

定期試験に基づいて評価する。

授業科目名： 知的障害児指導法 【シラバス共通科目 (佐大・熊大)】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 芳野正昭・半田健 担当形態： クラス分け・単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する 科目（中心領域：知、含む領域：肢病）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 特別支援学校（知的障害）の教育において教育課程が有する意義を理解する。</p> <p>2. 幼児、児童又は生徒の知的障害の状態や特性及び心身の発達の段階等、特別支援学校（知的障害）の教育実践並びに各学部や各段階のつながりを踏まえた教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメントの考え方を理解する。</p> <p>3. 知的障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解するとともに、自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p>			
授業の概要			
<p>わが国において、知的障害児の学習指導要領がどのような考え方によって編成されているのか、特別支援学校ではどのような学習指導法がとられているのか、そして、教育活動の質向上に向けたカリキュラム・マネジメントの考え方とはどのようなことなのかについて講義する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：知的障害に関する基礎知識（定義、捉え方）</p> <p>第2回：特別支援学校（知的障害）の目的及び教育目標と教育課程の意義</p> <p>第3回：特別支援学校（知的障害）における教育課程（1）知的障害児の学習上の特性等を踏まえた教育課程</p> <p>第4回：特別支援学校（知的障害）における教育課程（2）特徴的な点</p> <p>第5回：知的障害の教科の目標及び内容</p> <p>第6回：教科の指導の実際と学習指導案</p> <p>第7回：各教科別の指導と各教科等を合わせた指導</p> <p>第8回：各教科等を合わせた指導（1）日常生活の指導、遊びの指導</p> <p>第9回：各教科等を合わせた指導（2）生活単元学習</p> <p>第10回：各教科等を合わせた指導（3）生活単元学習の実際と学習指導案</p> <p>第11回：各教科等を合わせた指導（4）作業学習</p> <p>第12回：各教科等を合わせた指導（5）作業学習の実際と学習指導案</p>			

第13回：教科の指導と自立活動の指導

第14回：自立活動の指導と個別の指導計画

第15回：個別の指導計画とPDCAサイクル

定期試験

テキスト

①『特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』（平成29年4月告示 文部科学省）

②『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）』（平成30年3月 文部科学省）

③『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』（平成30年3月 文部科学省）

④『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）』（平成30年3月 文部科学省）

参考書・参考資料等

適宜、資料の配布および文献の紹介をする。

学生に対する評価

定期試験やレポートによって評価する。

授業科目名： 知的障害児アセスメント 論 【シラバス共通科目 (佐大・熊大)】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 菊池哲平・中村理美 担当形態： クラス分け・単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導に関する科目（中心領域：知）		
授業のテーマ及び到達目標 知的障害および発達障害に関するアセスメント法を学び、幼児、児童又は生徒一人一人の知的障害の状態や適応行動の困難さ及び認知の特性を把握することを理解するとともに、家庭や医療機関との連携について理解する。			
授業の概要 知的障害のアセスメント法を学び、知的障害の知的機能や適応機能を評価し適切な支援を検討するプロセスについて理解を深め、知的障害児の指導の背景になる基礎を学ぶことを目標として講義する。			
授業計画 第1回：知的障害の定義、知的機能と適応機能 第2回：知的機能の評価 新版K式発達検査 第3回：知的機能の評価 田中ビネー式知能検査 第4回：知的機能の評価 ウェクスラー式知能検査 言語理解指標 第5回：知的機能の評価 ウェクスラー式知能検査 視覚処理指標、流動性推理指標 第6回：知的機能の評価 ウェクスラー式知能検査 ワーキングメモリー指標 第7回：知的機能の評価 ウェクスラー式知能検査 処理速度指標 第8回：適応機能の評価 S・M社会生活能力検査 第9回：適応機能の評価 Vineland II 適応行動尺度 第10回：その他の評価 感覚プロフィール 第11回：その他の評価 AQ、PARS、ADOS 第12回：その他の評価 行動観察 第13回：総合的アセスメント 検査結果から実態把握する 第14回：総合的アセスメント 教育上の課題とアセスメントを対応づける 第15回：まとめ 個別の指導計画に活かすアセスメント論 定期試験			
テキスト			

適宜資料を配付する。
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 定期試験に基づいて評価する。

授業科目名： 肢体不自由児教育総論 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：栗原和弘
			担当形態： 単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：肢）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>授業テーマ：肢体不自由児教育における教育課程の意義・編成方法とカリキュラム・マネジメントを理解する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 特別支援学校（肢体不自由）の教育課程の意義と、その編成方法について理解する。 2. 肢体不自由児の特性や発達段階を考慮した教育内容の選定と指導計画の作成について理解する。 3. 自立活動を含めた個別の指導計画の作成と評価改善の方法を理解する。 4. 教育課程の編成とカリキュラム・マネジメントの関連性を実践的に理解する。 			
授業の概要			
<p>本授業では、特別支援学校（肢体不自由）の教育課程の意義、編成方法、及びカリキュラム・マネジメントについて学ぶ。また、教育課程の基盤となる特別支援学校教育要領に基づき、具体的な指導計画の作成方法を実践的に理解することを目的とする。</p>			
授業計画			
<p>第1回：肢体不自由児教育の意義</p> <p>第2回：肢体不自由児の特性と教育的配慮</p> <p>第3回：教育課程の編成方法</p> <p>第4回：年間指導計画の作成</p> <p>第5回：個別の指導計画(1)個別の指導計画の作成手順と自立活動の目標設定と内容選定</p> <p>第6回：個別の指導計画(2)自立活動と教科の連携及び評価・改善</p> <p>第7回：カリキュラム・マネジメント</p> <p>第8回：教育実践の事例から学ぶ</p>			
テキスト			
<p>文部科学省 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚園・小学部・中学部)</p> <p>文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)</p> <p>文部科学省 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚園・小学部・中学部)</p>			

)

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「特別支援教育の基礎・基本」

参考書・参考資料等

適宜、配布・紹介する。

学生に対する評価

平常点30%、中間課題30%、期末課題40%で総合的に評価する。

授業科目名： 肢体不自由児指導法 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：本吉大介・栗原 和弘 担当形態： 複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に 関する科目（中心領域：肢）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>授業テーマ：肢体不自由児の特性を理解し、各教科等（「自立活動」を除く）の指導における配慮事項や授業設計の方法を学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 肢体不自由児の状態や特性、心身の発達段階を踏まえ、思考力、判断力、表現力の育成に必要な体験的活動を理解する。 2. 姿勢や認知の特性に応じた指導方法を工夫する能力を身につける。 3. 指導効果を高めるための補助具やICT、教材・教具の活用方法を理解する。 4. 自立活動との関連を踏まえた各教科等の学習指導案を作成し、授業改善の視点を養う。 			
授業の概要			
本授業では、肢体不自由児の特性を理解し、各教科等の指導における配慮事項を具体的に学ぶ。また、授業設計や教材開発の実践的なスキルを習得し、自立活動と関連付けた効果的な授業案作成を目指す。			
授業計画			
第1回：肢体不自由児の心理社会的課題と教育上の課題への理解			
第2回：肢体不自由児の学習上の特性理解			
第3回：基礎的概念の形成を促す体験活動と思考力・判断力・表現力の育成			
第4回：姿勢や認知の特性に応じた指導方法(1)姿勢保持と学習環境の調整			
第5回：姿勢や認知の特性に応じた指導方法(2)個別のニーズに応じた指導の実践事例			
第6回：補助具やICTの活用(1)教材・教具の工夫と補助具			
第7回：補助具やICTの活用(2)ICTの効果的な活用			
第8回：教科指導と自立活動の関連(1)自立活動の目的と教科指導との関係性			
第9回：教科指導と自立活動の関連(2)自立活動の視点を取り入れた学習指導案の作成			
第10回：学習指導案の作成(1)対象児童の特性に基づいた指導案作成			
第11回：学習指導案の作成(2)作成した指導案を用いたグループディスカッション			
第12回：授業改善の視点(1)効果的な授業の評価方法			

第13回：授業改善の視点(2)評価に基づく授業改善

第14回：肢体不自由児を対象としたキャリア教育

第15回：肢体不自由児とインクルーシブ教育

テキスト

文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)

文部科学省 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「特別支援教育の基礎・基本」

参考書・参考資料等

適宜、配布・紹介する。

学生に対する評価

平常点30%、中間課題30%、期末課題40%で総合的に評価する。

授業科目名： 病弱児教育総論 【シラバス共通科目 (佐大・熊大)】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 芳野正昭／芳野正昭 担当形態： クラス分け・単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する 科目（中心領域：病）		
授業のテーマ及び到達目標 1. 特別支援学校（病弱）の教育において教育課程が有する意義を理解する。 2. 幼児、児童又は生徒の病気や障害の状態、特性及び心身の発達の段階等並びに特別支援学校（病弱）の教育実践に即した教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメントの考え方を理解する。 3. 病気や障害の状態、特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解するとともに、自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。			
授業の概要 病弱児・身体虚弱児とその教育に関して、病弱児・身体虚弱児の特性、病弱教育の意義、教育的ニーズ、教育の場、特別支援学校（病弱）における教育課程と指導法、カリキュラムマネジメント、進路指導、病弱教育の課題、重症心身障害児の教育の観点から概説する。			
授業計画 第1回：病弱・身体虚弱とは、病弱教育の意義 第2回：病弱児・身体虚弱児の教育の場・就学 第3回：特別支援学校（病弱）の教育課程 第4回：特別支援学校（病弱）の教育課程と指導法（1）教科の指導 第5回：特別支援学校（病弱）の教育課程と指導法（2）自立活動の指導 第6回：個別の指導計画とPDCAサイクル、進路指導 第7回：小・中学校における病弱教育：現状と課題 第8回：医療的ケア児の教育 定期試験			
テキスト ①『特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』（平成29年4月告示 文部科学省） ②『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）』（平成			

30年3月 文部科学省)

③『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』

（平成30年3月 文部科学省）

④『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）』（平成30年3月 文部科学省）

参考書・参考資料等

適宜、資料の配布及び文献の紹介をする。

学生に対する評価

授業期間中のレポート（10%）及び定期試験（90%）により評価する。

授業科目名： 病弱児指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 芳野 正昭・半田 健
【シラバス共通科目 (佐大・熊大)】			担当形態： クラス分け・単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する 科目（中心領域：病、含む領域：知肢）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 特別支援学校（病弱）の教育において教育課程が有する意義を理解する。</p> <p>2. 幼児、児童又は生徒の病気や障害の状態、特性及び心身の発達の段階等並びに特別支援学校（病弱）の教育実践に即した教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメントの考え方を理解する。</p> <p>3. 病気や障害の状態、特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解するとともに、自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p>			
授業の概要			
<p>病弱児・身体虚弱児とその教育に関して、病弱児・身体虚弱児の特性、病弱教育の意義、教育的ニーズ、教育の場、特別支援学校（病弱）における教育課程と指導法、カリキュラムマネジメント、進路指導、病弱教育の課題、重症心身障害児の教育の観点から概説する。</p>			
授業計画			
第1回：病弱・身体虚弱とは			
第2回：病弱教育の歴史と現状、病弱教育の意義			
第3回：病弱児・身体虚弱児の教育的ニーズ			
第4回：病弱児・身体虚弱児の教育の場・就学			
第5回：特別支援学校（病弱）の教育課程			
第6回：特別支援学校（病弱）の教育課程と指導法（1）教科の指導			
第7回：特別支援学校（病弱）の教育課程と指導法（2）教科の指導の実際			
第8回：特別支援学校（病弱）の教育課程と指導法（3）自立活動の指導			
第9回：特別支援学校（病弱）の教育課程と指導法（4）自立活動の指導の実際			
第10回：重症心身障害児の教育（1）重症心身障害児及び超重症児の概念			
第11回：重症心身障害児の教育（2）重症心身障害児の病弱教育の実際			
第12回：個別の指導計画とPDCAサイクル			
第13回：進路指導			
第14回：小・中学校における病弱教育：現状と課題			

第15回：医療的ケア児の教育

定期試験

テキスト

- ①『特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』（平成29年4月告示 文部科学省）
- ②『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）』（平成30年3月 文部科学省）
- ③『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』（平成30年3月 文部科学省）
- ④『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）』（平成30年3月 文部科学省）

参考書・参考資料等

適宜、資料の配布及び文献の紹介をする。

学生に対する評価

定期試験やレポートによって評価する。

授業科目名： 知的障害児教育総論 【シラバス共通科目 (佐大・熊大)】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 菊池哲平・半田健／中村 理 美 担当形態： クラス分け・複数／単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：知）		
授業のテーマ及び到達目標 1. 知的障害について、その実態や主な原因について基本事項を理解する。 2. 特別支援学校（知的障害）における教育の実態について概要を理解する。 3. 知的障害をはじめとする各種の障害に対する福祉的制度やサービスなどの概要を理解する			
授業の概要 本科目は、特別支援学校教員免許を取得するためのオリエンテーション科目と位置付けている。知的障害について、その原因の生理・病理学的なメカニズムや知的発達に関する基本的な事項を解説する（心理・生理・病理分野）と共に、知的障害のある児童生徒に対する特別支援学校における教育の実態について、その特徴を解説する。さらに、障害のある子どもと関連する福祉的制度やサービス等について（療育手帳制度や児童発達支援・放課後等デイサービス、福祉就労制度等）について説明する。			
授業計画 第1回：知的障害ってどんな障害？ 第2回：知的障害の定義と呼称の歴史 第3回：知的障害の主な原因（病理） 第4回：知的障害教育の歴史 第5回：特別支援学校（知的障害）における教育の実態（1）：概要 第6回：特別支援学校（知的障害）における教育の実態（2）：生活単元学習 第7回：特別支援学校（知的障害）における教育の実態（3）：作業学習 第8回：特別支援学校（知的障害）における教育の実態（4）：日常生活の指導 第9回：特別支援学校（知的障害）における教育の実態（5）：遊びの指導 第10回：特別支援学校（知的障害）における教育の実態（6）：自立活動 第11回：就学前の知的障害のある子どもの学びの場 第12回：特別支援学級における教育と実践			

第13回：特別支援学校卒業後の様子と進路支援

第14回：知的障害教育の展開

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

①『特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』（平成29年4月告示 文部科学省）

②『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）』（平成30年3月 文部科学省）

③『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』（平成30年3月 文部科学省）

④『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）』（平成30年3月 文部科学省）

参考書・参考資料等

適宜、資料の配布および文献の紹介をする。

学生に対する評価

定期試験やレポートによって評価する。

授業科目名： 発達障害児脳科学論 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 日高 茂暢 担当形態： 単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：発達）		
授業のテーマ及び到達目標 発達障害の障害特性や認知特性について精神生理学や神経心理学、認知神経科学の観点から理解し、幼児、児童又は生徒一人一人の状態や認知の特性を把握することを理解するとともに、家庭や医療機関との連携について理解する。			
授業の概要 発達障害のある子どもの障害特性や認知特性の背景にある脳機能の特徴を理解し、発達障害のある子どもや大人の理解を深め、指導の背景になる基礎を学ぶことを目標として講義する。			
授業計画 第1回：脳機能計測からとらえる発達障害 第2回：自閉スペクトラム症 社会的認知と脳機能 第3回：自閉スペクトラム症 感覚偏倚と脳機能 第4回：学習障害 音韻認知と脳機能 第5回：学習障害 ディスレクシアの早期発見と早期介入 第6回：ADHD 実行機能と脳機能 第7回：発達性協調運動症 書字動作と脳機能 第8回：特別支援教育を支える心理学研究のこれから 定期試験			
テキスト 適宜資料を配付する。			
参考書・参考資料等 北洋輔・平田正吾（2019）：発達障害の心理学 特別支援教育を支えるエビデンス、福村出版。			
学生に対する評価 定期試験に基づいて評価する。			

授業科目名： 視覚障害児の心理・生理・病理 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 内川 義和、岡野 真弓
			担当形態： オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：視覚障害者）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業では、「みる・みえる」仕組みを理解し、視覚障害とそれをもたらす疾患の概要、視覚障害による学習上または生活上の困難とそれに対する適切な配慮や支援について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 視覚障害教育の概要を説明できる。 2. 眼の構造と機能の概要を説明できる。 3. 様々な視覚障害の見え方の特徴を説明できる。 4. 視覚障害をもたらす主な疾患を挙げ、その特徴を説明できる。 5. 視覚障害による学習上、生活上の困難を述べることができる。 6. 視覚障害児童生徒に対する支援の要点を説明できる。 7. 保有視覚の評価と活用法について概要を説明できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は、視覚障害児童・生徒の教育的ニーズを把握し、適切な指導および必要な支援を実践するために必要となる基本的知識の習得を目指す。本授業を通して、視覚障害による学習上または生活上の困難とそれに対する適切な配慮や支援について理解する。</p> <p>本授業は資料（スライド）を用いて講義形式で行う。</p> <p>内容ごとに小テストを行い、知識の整理と確認を行う。</p> <p>本授業は、視能訓練士として視覚機能の評価と支援に関する実務経験を有している教員が、視覚障害児童・生徒への支援に関して必要となる知識を実践的に教育する科目である。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：視覚障害と特別支援教育（岡野 真弓）</p> <p>第2回：視覚障害の理解1 眼の構造と機能（岡野 真弓）</p> <p>第3回：視覚障害の理解2 視力障害（岡野 真弓）</p> <p>第4回：視覚障害の理解3 屈折異常（岡野 真弓）</p> <p>第5回：視覚障害の理解4 視野障害（岡野 真弓）</p> <p>第6回：視覚障害の理解5 視力、視野障害の実際（演習）（岡野 真弓）</p>			

第7回：視覚障害の理解6 色覚異常（岡野 真弓）

第8回：視覚障害児童生徒に対する教育的支援（岡野 真弓）

第9回：身近な目の病気と症状（内川 義和）

第10回：視覚障害の現状（日本、世界）（内川 義和）

第11回：中途視覚障害をもたらす主な疾患（内川 義和）

第12回：視覚障害をもたらす乳幼児・小児の主な疾患（内川 義和）

第13回：視覚障害児童生徒に対する支援 保有視覚の評価（内川 義和）

第14回：視覚障害児童生徒に対する支援 保有視覚の活用（内川 義和）

第15回：視覚障害の早期発見（視覚健診）について（内川 義和）

定期試験

テキスト

障害のある子どもの保育・教育一心に寄り添う援助をめざして一、小竹利夫他編、建帛社、2020年

参考書・参考資料等

毎回の授業の際に、統計資料等を配布する。

学生に対する評価

成績評価は定期試験（筆記試験）（100%）による。

授業科目名： 聴覚障害児の心理・生理 ・病理 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 深浦 順一 担当形態： 単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：聴覚障害者）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：覚障害者の生理および病理を理解し、自立活動、指導法への応用について学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 聴覚系の構造と機能について説明できる。 2. 聴覚検査について説明できる。 3. 難聴の病態について説明できる。 4. 補聴器、人工内耳について説明できる。 5. 聴覚障害児の指導法について説明できる。 6. 聴覚障害児の自立活動について説明できる。 7. 聴覚障害児・者のための福祉制度を説明できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>教員作成の資料に基づき、聴覚障害理解のための基礎、幼児から大学までの教育内容と配慮、社会保障制度までを概説する。特別支援教育領域の聴覚障害児・者に関する領域を「中心となる領域」とする科目である。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：音の物理的性質、聴覚心理：音とは、音の強さ、高さ、音圧レベル、聴力レベル</p> <p>第2回：聴覚系の構造と機能：伝音系（外耳、中耳）</p> <p>第3回：聴覚系の構造と機能感音系（内耳、聴覚中枢路・後迷路）</p> <p>第4回：聴覚障害の原因：外耳疾患、中耳疾患、内耳疾患、後迷路疾患、機能性疾患</p> <p>第5回：聴覚機能検査：標準純音聴力検査、語音検査、聴性誘発反応検査</p> <p>第6回：聴覚機能検査：新生児聴覚スクリーニング検査、他覚的聴力検査、乳幼児聴力検査</p> <p>第7回：補聴器・人工内耳：補聴器・人工内耳の適応、補聴器・人工内耳の実際</p> <p>第8回：言語機能と言語発達：音韻、意味、文法（統語、形態）、語用とその発達</p> <p>第9回：聴覚障害の影響（小児）：言語発達とそれに関連する側面への影響</p> <p>第10回：聴覚障害の影響（成人）：中途失聴者、先天性難聴者</p> <p>第11回：評価：小児（発達、知能、学力等）、成人（コミュニケーション、心理等）</p>			

第12回：聴覚障害児・者のコミュニケーション：口話法、手話法、トータルコミュニケーション法等

第13回：幼児教育：生活言語の獲得

第14回：学童期以降の教育：学習言語の獲得、読み書き能力の指導

第15回：福祉制度と就労：障害者福祉法、その他

定期試験：実施する

テキスト

教員が作成した資料を使用する

参考書・参考資料等

特別支援教育の基礎. 松山郁夫・芳野正昭編著. 学文社

学生に対する評価

定期試験で評価する

授業科目名： 障害児行動分析学 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 半田 健 担当形態： 単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：発）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 発達障害・知的障害の特徴と二次的な障害について理解するとともに、児童生徒一人一人の行動問題に対する環境と個人との相互作用に基づく支援について理解する。</p> <p>2. 発達障害・知的障害のある児童生徒を含む学校・学級集団への支援や、ソーシャルスキルトレーニング、家庭・関係機関との連携についても理解する。</p>			
授業の概要			
<p>小・中学校や特別支援学校において発達障害・知的障害のある児童生徒が示す行動問題について、応用行動分析学に基づく支援を講義する。また、発達障害・知的障害のある児童生徒を含む学校・学級集団への支援や、ソーシャルスキルトレーニング、家庭や関係機関との連携についても講義する。</p>			
授業計画			
第1回：発達障害・知的障害の特徴と二次的な障害			
第2回：応用行動分析学の考え方			
第3回：行動問題に対する機能的アセスメント			
第4回：機能的アセスメントに基づく支援 適応行動の選定と増加			
第5回：機能的アセスメントに基づく支援 適応行動の獲得・行動問題の消去			
第6回：行動上の問題に対する支援の検討			
第7回：行動上の問題に対する支援の提案			
第8回：学校規模ポジティブ行動支援（SWPBS）			
第9回：学級規模ポジティブ行動支援（CWPBS）			
第10回：ソーシャルスキルトレーニングに向けた児童生徒の実態把握			
第11回：実態把握に基づくソーシャルスキルトレーニングの考え方			
第12回：ソーシャルスキルトレーニングの検討			
第13回：ソーシャルスキルトレーニングの提案 小学校			
第14回：ソーシャルスキルトレーニングの提案 中学校			
第15回：家庭・関係機関との連携の実際			

テキスト

適宜、資料の配布及び文献の紹介をする。

参考書・参考資料等

ミルテンバーガー, L, G. (著) 野呂文行・佐々木銀河・青木康彦・神山 努 (訳) (2024) 行動変容法入門 日本語版第2版. ニ瓶社.

若林上総・半田 健・田中善大・庭山和貴・大対香奈子 (2023) 学校全体で取り組むポジティブ行動支援スタートガイド. ジアース教育新社.

オニール, R, E. et al. (著) 三田地真実・神山 努 (監訳) 岡村章司・原口英之 (訳) (2017) 子どもの視点でポジティブに考える問題行動解決支援ハンドブック. 金剛出版.

学生に対する評価

レポートや発表によって評価する。

授業科目名： 発達障害児教育総論 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中村理美 担当形態： 単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 （中心領域：発達）		
授業のテーマ及び到達目標 1. 自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、限局性学習症の心理的・生理的・病理的特徴や、幼児児童生徒一人一人の状態、感覚や認知及び行動の特性を把握について理解するとともに、家庭や医療、福祉及び労働機関との連携について理解する。 2. 通常の学級の教育課程を基盤として、通級による指導や特別支援学級における特別の教育課程が有する意義や、自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、限局性学習症の状態や特性及び心身の発達の段階等並びに学校の教育実践に即した教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメントの考え方を理解するとともに、特別支援教育のセンター的機能の役割を果たす必要性について理解する。 3. 自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、限局性学習症の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解するとともに、自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。			
授業の概要 自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、限局性学習症といった発達障害のある幼児児童生徒の支援について、心理学的・教育的な視点から支援のあり方やアプローチの方法について学ぶことを目標として講義する。			
授業計画 第1回：発達障害の概要（発達と障害） 第2回：発達障害の定義と分類 第3回：自閉スペクトラム症（ASD）の理解と支援 第4回：注意欠如多動症（ADHD）の理解と支援 第5回：限局性学習症（LD）の理解と支援 第6回：発達性協調運動症（DCD）の理解と支援			

第7回：発達障害児の実態把握①心理・発達検査におけるアセスメント 第8回：発達障害児の実態把握②ワーキングメモリ 第9回：発達障害児教育における教育課程とカリキュラム・マネジメント 第10回：発達障害児教育における自立活動の指導 第11回：個別の支援計画と個別の指導計画 第12回：通常学級・通級指導教室・特別支援学級における指導・支援 第13回：発達障害児教育における情報機器の活用 第14回：関係機関との連携と家族支援 第15回：事例検討（指導案と支援の実際） 定期試験
テキスト 適宜資料を配付する。
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 レポート・定期試験に基づいて評価する。

授業科目名： 重複・視覚・聴覚障害 児教育総論 【シラバス共通科目（佐 大・熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 芳野 正昭／本吉 大介 担当形態： クラス分け・単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 （中心領域：重、含む領域：視、聴）		
授業のテーマ及び到達目標 本授業では、重度・重複障害児、視覚障害児、聴覚障害児の教育に関して、以下の専門的知識と実践的視点を習得することを目指す。（1）重度・重複障害の概念、（2）重度・重複障害児、視覚障害児、聴覚障害児それぞれの心理的・生理的・病理的特徴ならびにそれらの相互作用、（3）重度・重複障害児の感覚や基本動作、コミュニケーションなどの発達支援の視点、（4）教育課程の編成とカリキュラム・マネジメントの考え方、（4）視覚障害児及び聴覚障害児に対する各教科及び自立活動の指導、（5）重度・重複障害児の個別の特性に応じた具体的な指導法について習得する。			
授業の概要 本講義では、重度・重複障害児、視覚障害児及び聴覚障害児に対する学校教育の取り組みを中心に論じる。具体的には、（1）重度・重複障害児に関しては、重度・重複障害児の概念、心理的・生理的・病理的特徴、実態把握の進め方（観察・評価・アセスメント）・感覚や基本動作の発達支援・コミュニケーション行動の促進のための支援の視点、教育課程の編成とカリキュラム・マネジメント、個別の指導計画の活用、超重症児の教育と医療的ケアについて論じる。また教育現場での実践例を映像等を用いて紹介するとともに指導法や支援の在り方について教育実践例を基に考察する。（2）視覚障害児に関しては、心理的・生理的・病理的特徴、視覚障害児の視知覚や触知覚及び認知の特性、家庭や医療機関との連携、特別支援学校（視覚障害）の教育課程とカリキュラム・マネジメント、各教科及び自立活動の指導について論じる。（3）聴覚障害児に関しては、心理的・生理的・病理的特徴、聞こえの状態と言語面及び心理面の特性と発達、家庭や医療機関との連携、特別支援学校（聴覚障害）の教育課程とカリキュラム・マネジメント、各教科及び自立活動の指導について論じる。最後に、重度・重複障害児・視覚障害児・聴覚障害児への ICT・AT を活用した教育について解説する。			
授業計画			

<p>第1回：重度・重複障害の概念と重度・重複障害児の行動等の特徴（病理面と心理面及び生理面の特徴から）</p> <p>第2回：視覚障害児の障害の起因となる病理面と心理面及び生理面の特徴、視知覚や触知覚及び認知の特性と発達、家庭や医療機関との連携</p> <p>第3回：聴覚障害児の障害の起因となる病理面と心理面及び生理面の特徴、聞こえの状態と言語面及び心理面の特性と発達、家庭や医療機関との連携</p> <p>第4回：重度・重複障害児に対する実態把握の進め方と取り組みの視点（1）健康の保持・増進、自発的な動き</p> <p>第5回：重度・重複障害児に対する取り組みの視点（2）感覚運動機能及び基本動作の発達支援</p> <p>第6回：重度・重複障害児に対する取り組みの視点（3）人間関係の形成と心理的な安定</p> <p>第7回：重度・重複障害児に対する取り組みの視点（4）コミュニケーションの促進</p> <p>第8回：重度・重複障害児に対する取り組みの視点（5）学習や余暇に繋がる遊び、探索活動の促進</p> <p>第9回：重複障害者等に関する教育課程の取扱いとカリキュラム・マネジメント</p> <p>第10回：重度・重複障害児、視覚障害児、聴覚障害児に対する個別の指導計画とPDCAサイクルとカリキュラム・マネジメント</p> <p>第11回：特別支援学校（視覚障害）の教育課程、各教科及び自立活動の指導</p> <p>第12回：特別支援学校（聴覚障害）の教育課程、各教科及び自立活動の指導</p> <p>第13回：盲知的障害児や聾知的障害児等の重複感覚障害児の教育</p> <p>第14回：超重症児の教育と医療的ケア</p> <p>第15回：重度・重複障害児・視覚障害児・聴覚障害児へのICT・ATを活用した教育</p>
<p>テキスト</p> <p>①『特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』（平成29年4月告示 文部科学省）</p> <p>②『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）』（平成30年3月 文部科学省）</p> <p>③『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』（平成30年3月 文部科学省）</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>適宜、配布したり紹介したりする。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>授業期間中のレポート（40%）及び最終レポート（60%）により評価する。</p>

授業科目名： ギフティッド・2E 教育論 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 日高 茂暢 担当形態： 単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：発)		
授業のテーマ及び到達目標			
高い潜在能力をもつギフティッドや高い能力と障害を併せ持つ2Eについて、心理面や教育的ニーズ、その支援・指導を学び、幼児、児童又は生徒一人一人の状態や認知の特性を把握することを理解するとともに、家庭や医療機関との連携について理解する。			
授業の概要			
高い潜在能力をもつギフティッドや高い能力と障害を併せ持つ2Eについて、心理的特徴や教育的ニーズを学び、ギフティッドや2Eのある子どもの理解を深め、指導の背景になる基礎を学ぶことを目標として講義する。			
授業計画			
第1回：ギフティッド・2Eの定義、多重知能理論 第2回：ギフティッドと才能行動 第3回：レンズーリの三輪モデル、全校拡充モデル（SEM） 第4回：ギフティッドの心理的特徴 知的水準と認知特性 第5回：ギフティッドの心理的特徴 非同期発達 第6回：ギフティッドの心理的特徴 Overexcitability（過度激動） 第7回：2E ギフティッド+自閉スペクトラム症の特徴と支援 第8回：2E ギフティッド+学習障害の特徴と支援 第9回：2E ギフティッド+ADHDの特徴と支援 第10回：ギフティッド・2Eの心理支援 肯定的分離理論（TPD） 第11回：ギフティッド・2Eの心理支援 社会的孤立、うつ、自死 第12回：諸外国の実践から見るギフテッド・2E教育 アメリカ 第13回：諸外国の実践から見るギフテッド・2E教育 ヨーロッパ			

第14回：諸外国の実践から見るギフテッド・2E教育 アジア・オセアニア

第15回：日本におけるギフテッド・2E教育と特別支援教育のこれから

定期試験

テキスト

小倉正義・片桐正敏（2024）：特別支援教育のはざまにいる子どもたち：ギフテッド・2E・境界知能. 金子書房

参考書・参考資料等

片桐正敏・小泉雅彦・日高茂暢・富永大悟（2021）：ギフテッドの個性を知り、伸ばす方法. 小学館

ジェームズ・ウェブら・角谷詩織（2019）：わが子がギフティッドかもしれないと思ったら. 春秋社.

学生に対する評価

定期試験に基づいて評価する。